2017年3月期　決算説明会

開催日：2017年5月17日（水）

2017年5月17日にアナリスト・機関投資家の方々を対象とした
「2017年3月期　決算説明会」を開催いたしました。
決算概要、業績予想、第9次中期経営計画（Challenge 1500）進捗について
説明いたしました。
内容につきましては、次ページ以降に掲載しておりますのでご覧ください。

2017年3月期　決算説明資料

2017年5月17日

サンワテクノス株式会社

URL : http://www.sunwa.co.jp/

本資料取扱い上の注意点

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想見通しの記述が含まれています。

- これらの記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展等により変動することがあり得ます。

- 従いまして、実際の業績等が記載の予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

- 2017年3月期 決算概要
- 2018年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

- 2017年3月期 決算概要
- 2018年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

連結決算の概要について

・連結売上高が過去最高
・前年同期比で増収減益（営業利益、経常利益は増益、当期純利益は減益）
・固定資産の減損損失として特別損失を約6億6千万円計上

（単位：百万円）

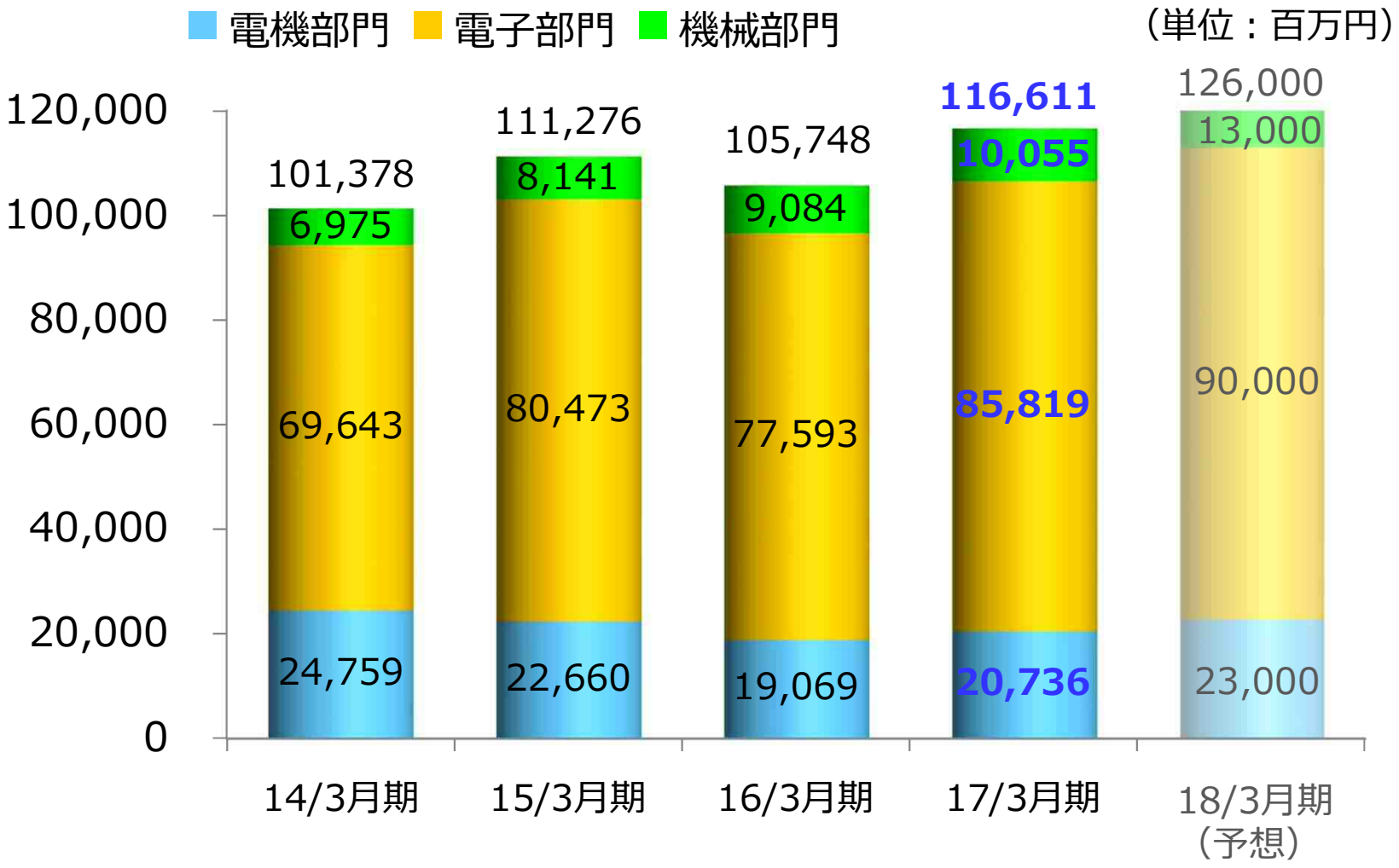
	前期	当期	増減額	対前年同期増減率
売上高	105,748	116,611	10,863	10.3%
営業利益	2,444	3,014	570	23.3%
経常利益	2,645	3,215	570	21.6%
当期純利益（※）	1,690	1,584	△106	△6.3%
1株当たり当期純利益	117.76円	113.64円	△4.12円	△3.5%

【連結決算の概要について】
電機・電子・機械分野の最新技術と優れた製品情報を融合させたコアビジネスに、ものづくりの先鋭化をサポートするエンジニアリング力とグローバルSCMソリューションをプラスし、グローバルに活躍する独立系技術商社として新たな価値を生み出す取組みが効果を上げ売上高、営業利益、経常利益は前期を上回る結果となりました。
しかしながら、特別損失（固定資産の減損損失）を計上したことにより前期を下回る結果となりました。

（※）親会社株主に帰属する当期純利益

売上高及び経常利益推移（連結）

部門別 売上高推移表

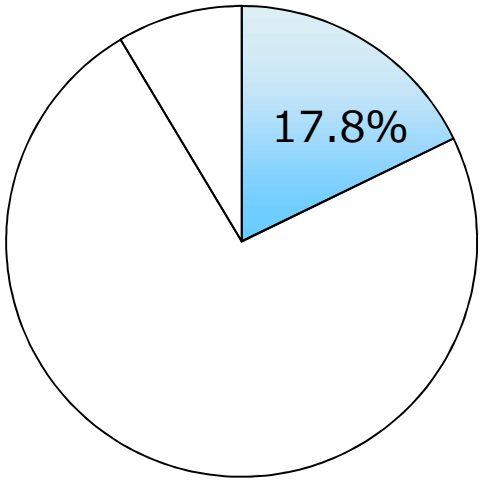

電機部門
電子部門
機械部門
（単位：百万円）
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
101,378
6,975
69,643
24,759
111,276
8,141
80,473
22,660
105,748
9,084
77,593
19,069
116,611
10,055
85,819
20,736
126,000
13,000
90,000
23,000
14/3月期
15/3月期
16/3月期
17/3月期
18/3月期
（予想）

部門別の概要【電機部門】

■売上高

2017年3月期　20,736百万円（前期比　8.7%増）
2016年3月期　19,069百万円（前期比 15.8%減）

■売上高構成比率



■売上高推移表

（単位：百万円）

	14/3月期	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期（予想）
売上高構成比率	24.4%	20.4%	18.0%	17.8%	18%

■point

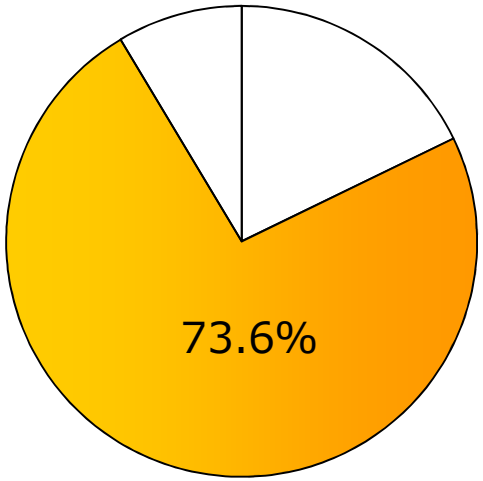
・FPD（フラットパネルディスプレイ）関連業界向けの電機品の販売が増加
・半導体関連業界向け及び産業機械業界向けの電機品の販売が増加
・太陽光発電システム向けの制御機器の販売が減少

部門別の概要【電子部門】

■売上高

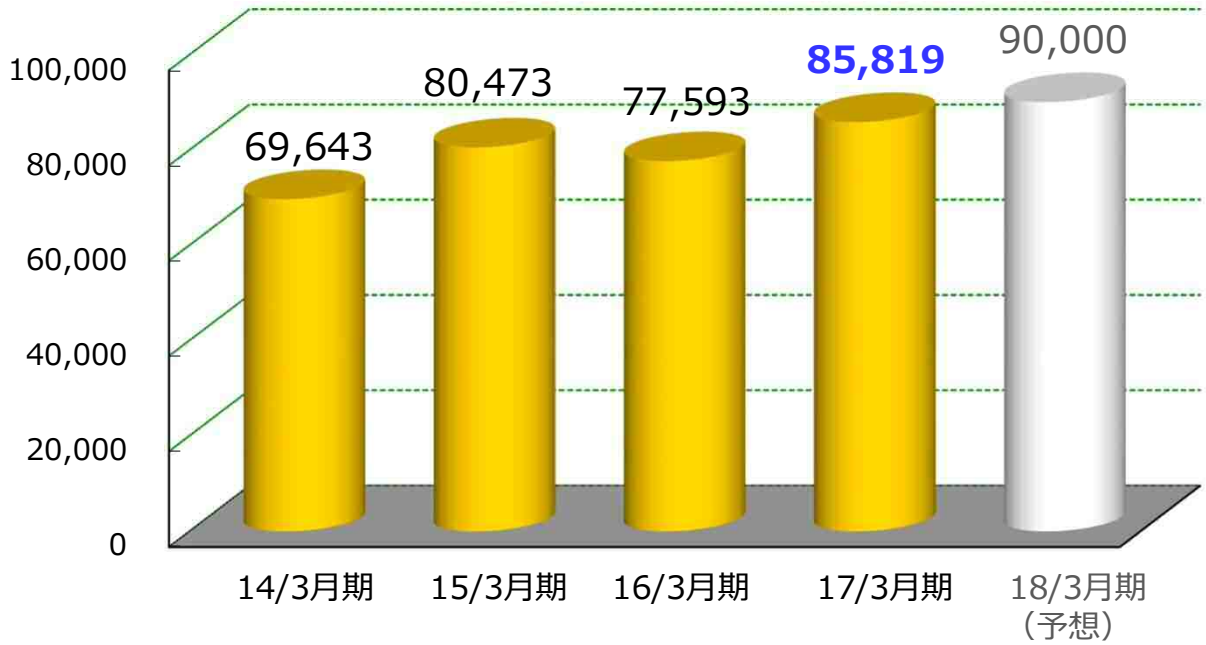
2017年3月期　85,819百万円（前期比　10.6%増）
2016年3月期　77,593百万円（前期比　　3.6%減）

■売上高構成比率



■売上高推移表

（単位：百万円）



売上高構成比率	68.7%	72.3%	73.4%	73.6%	71%

■point

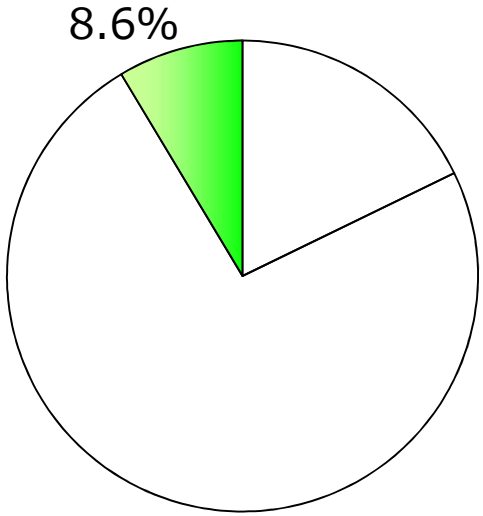
・自動車関連業界向け及び産業機械業界向けの電子部品の販売が増加
・FPD関連業界向けのFA機器用電子部品の販売が増加

部門別の概要【機械部門】

■売上高

2017年3月期　10,055百万円（前期比　10.7%増）
2016年3月期　9,084百万円（前期比　11.6%増）

■売上高構成比率



■売上高推移表

（単位：百万円）

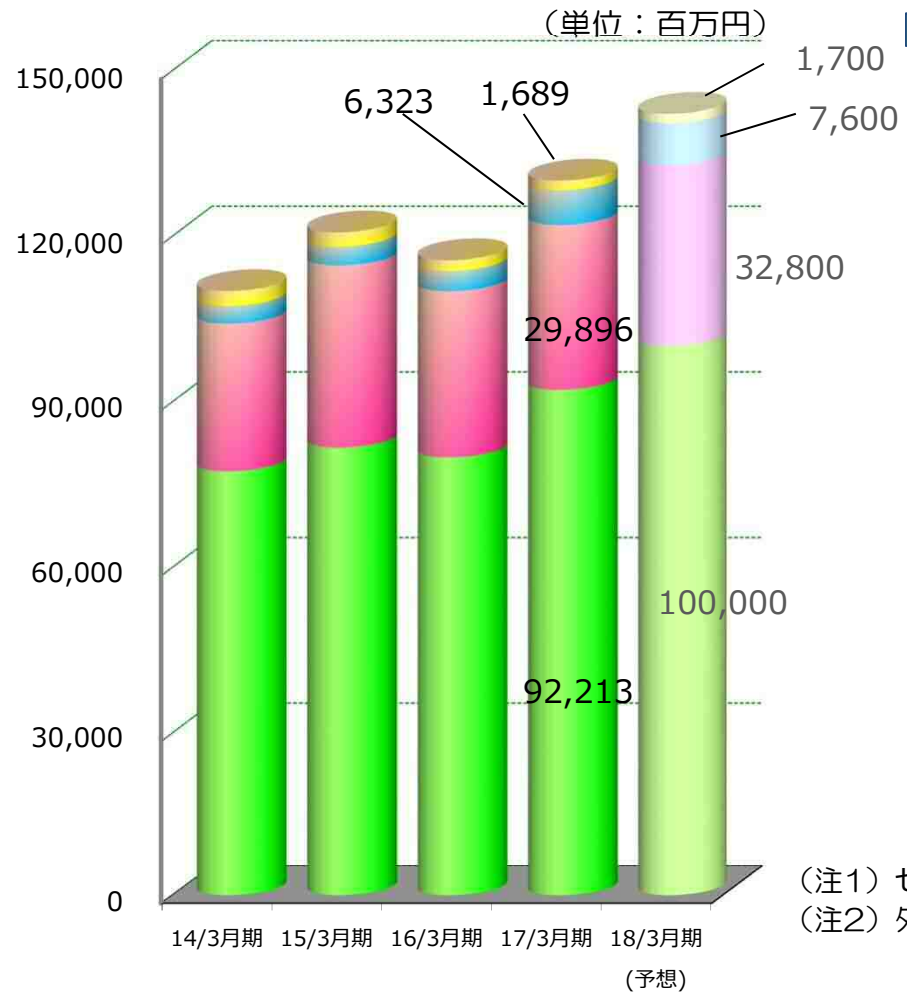
売上高構成比率	6.9%	7.3%	8.6%	8.6%	11%

■point

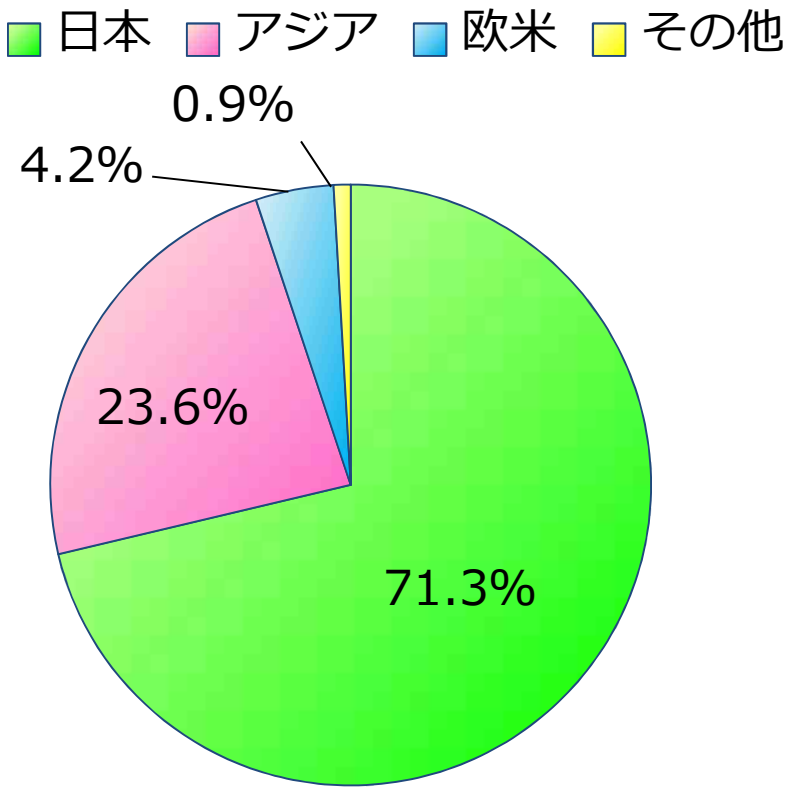
・産業機械業界向けの生産設備の販売が増加
・FPD関連業界向けの設備機器の販売が増加
・住宅設備業界向けの設備機器の販売が減少

セグメントの概要

■売上高（注1）



■売上高構成比率（17/3月期）（注2）



（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【日本】

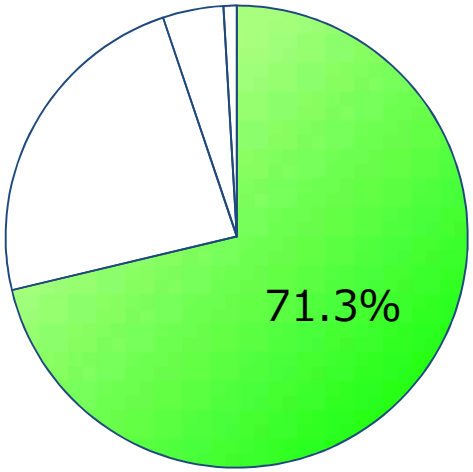
■売上高

2017年3月期	92,213百万円	（前期比 15.3%増）
2016年3月期	79,995百万円	（前期比 2.1%減）

■営業利益

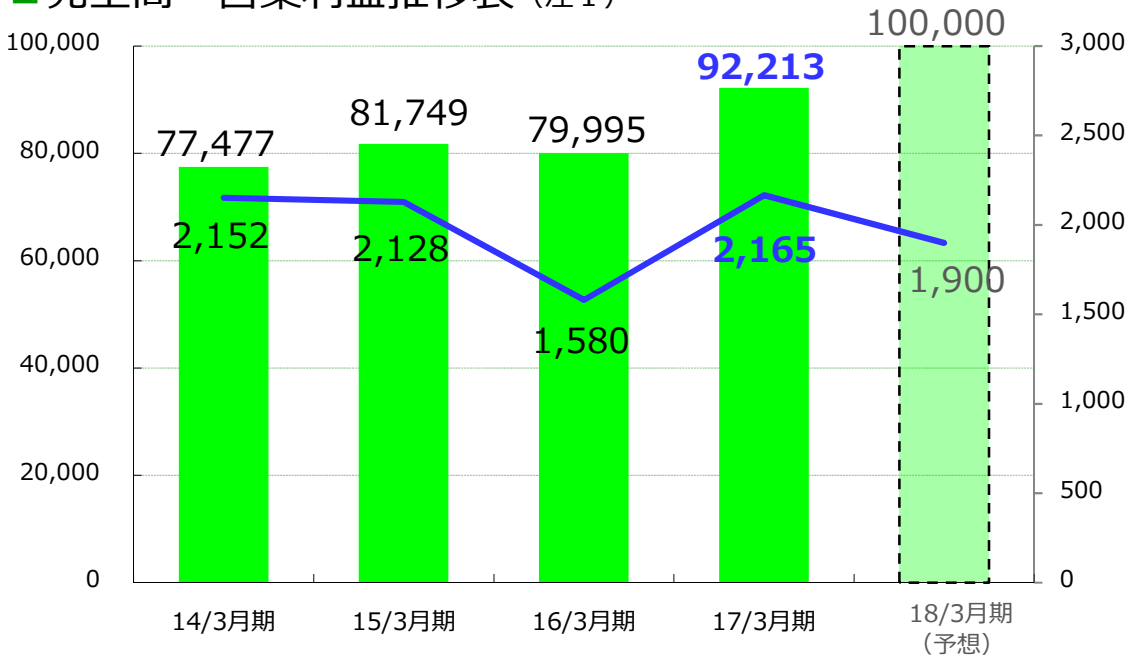
2017年3月期	2,165百万円	（前期比 37.1%増）
2016年3月期	1,580百万円	（前期比 25.8%減）

■売上高構成比率（注2）



■売上高・営業利益推移表（注１）

（単位：百万円）



売上高構成比率	71.4%	68.5%	69.7%	71.3%	70%

■point

・自動車関連業界向けの電子部品の販売が増加
・FPD関連業界向けの電機品、FA機器用電子部品及び設備機器の販売が増加
・産業機械業界向けの電機品、電子部品及び生産設備の販売が増加
・半導体業界向けの電機品の販売が増加
・太陽光発電システム向けの制御機器の販売が減少
・住宅設備業界向けの設備機器の販売が減少

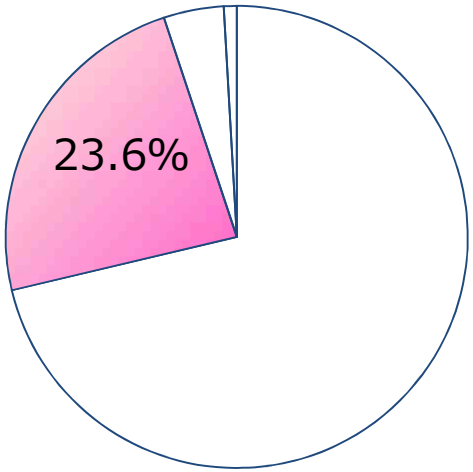
（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【アジア】

■売上高
2017年3月期　29,896百万円（前期比　0.7%減）
2016年3月期　30,097百万円（前期比　8.8%減）

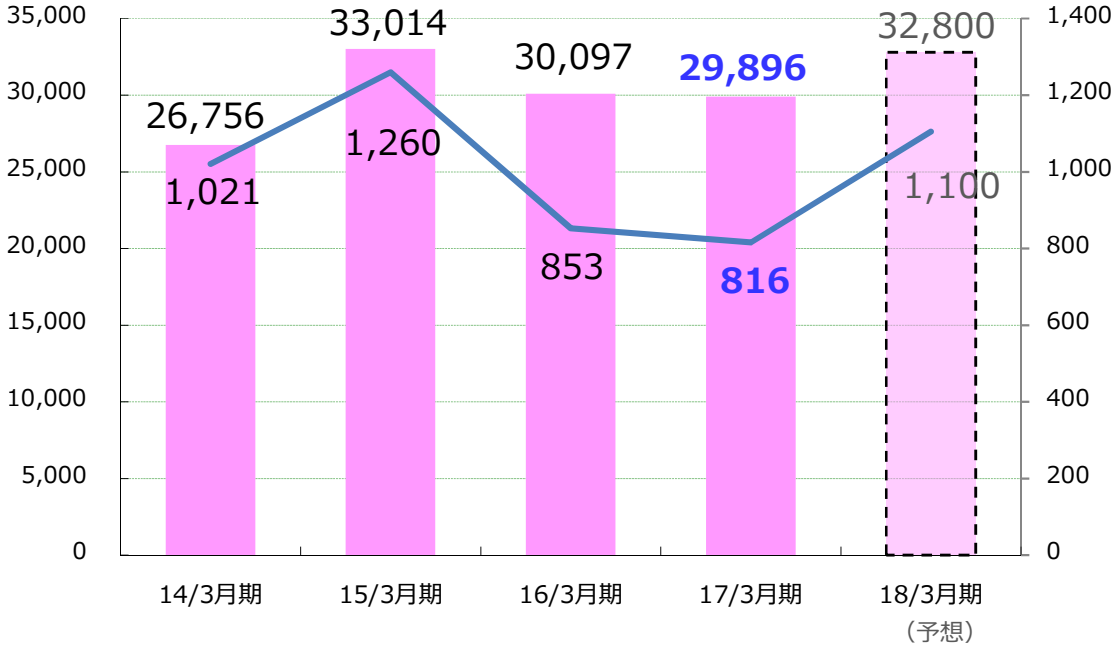
■営業利益
816百万円（前期比　4.3%減）
853百万円（前期比 32.3%減）

■売上高構成比率（注2）



■売上高・営業利益推移表（注１）

（単位：百万円）



	14/3月期	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期（予想）
売上高構成比率	24.5%	27.3%	25.9%	23.6%	23%

■point
・電気機器業界向けの電子部品の販売が増加
・産業機械業界向けの電機品の販売が増加
・産業機械業界向けの一部の電子部品の販売が増加
・アミューズメント向けの電子部品の販売が減少

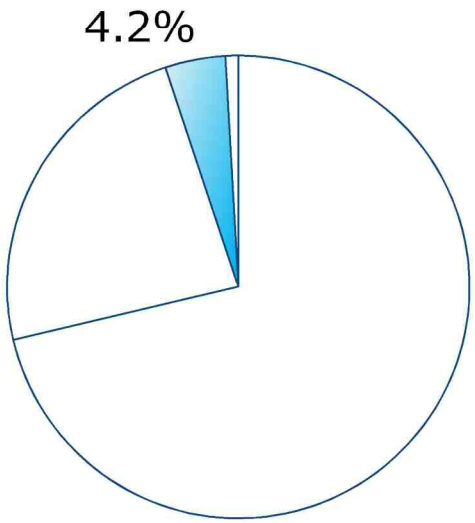
（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【欧米】

■売上高
2017年3月期　6,323百万円（前期比 71.6%増）
2016年3月期　3,685百万円（前期比　7.4%増）

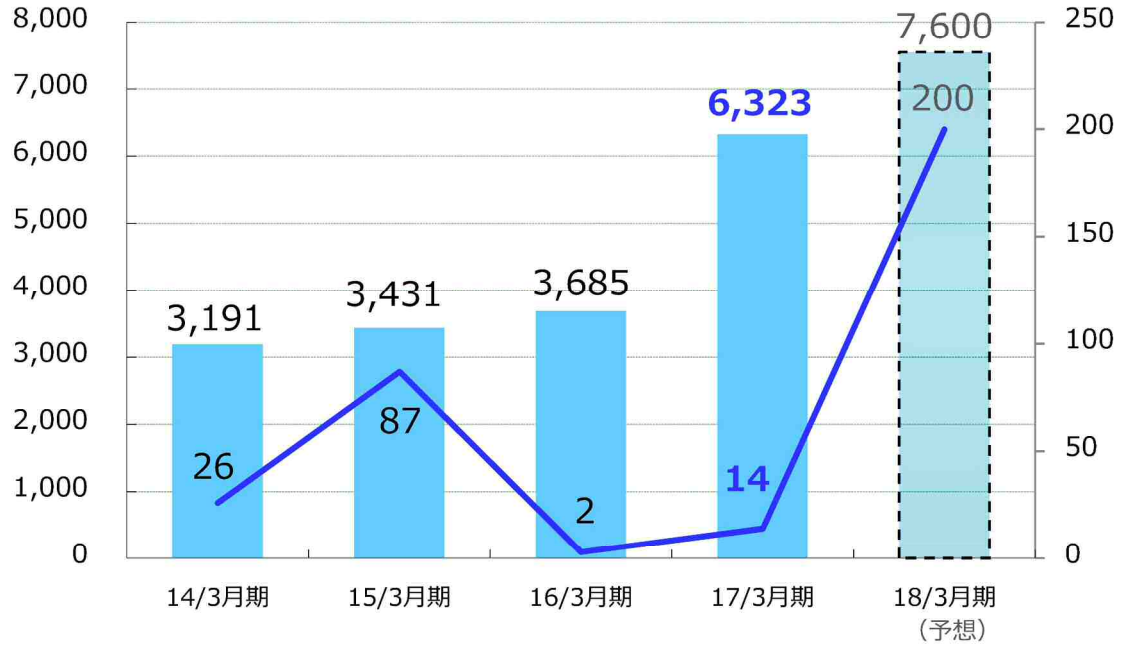
■営業利益
14百万円（前期比　375.5%増）
2百万円（前期比　96.6%減）

■売上高構成比率（注２）



■売上高・営業利益推移表（注１）

（単位：百万円）



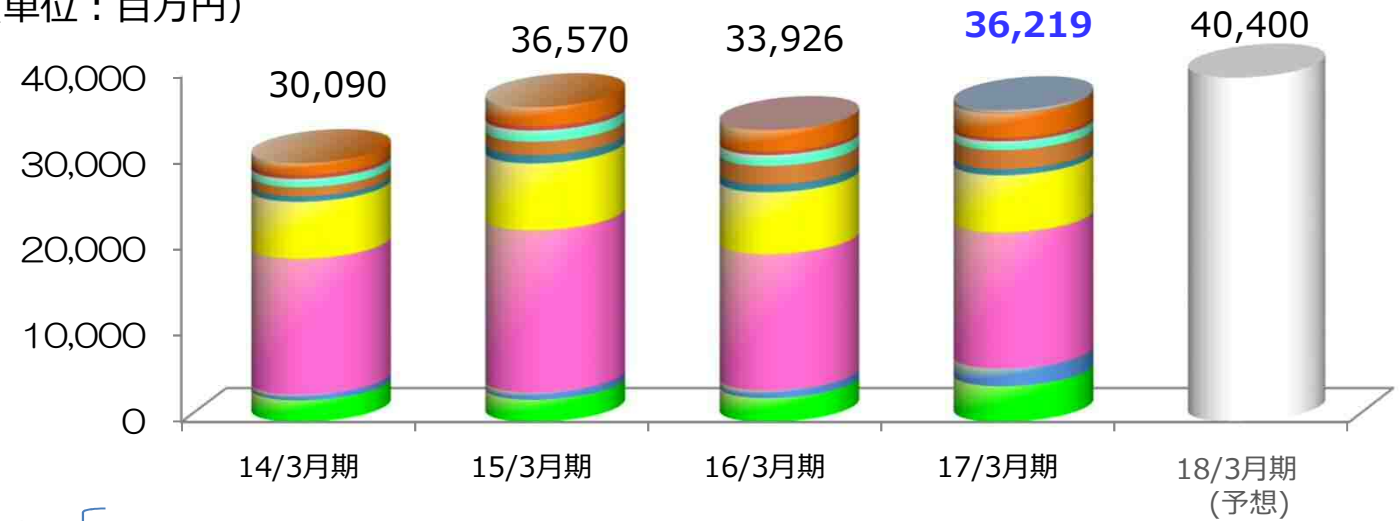
	14/3月期	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期（予想）
売上高構成比率	2.6%	2.8%	3.3%	4.2%	5%

■point
・アミューズメント向けの電子部品の販売が増加
・産業機械業界向けの生産設備の販売が増加
・FPD関連業界向けの電機品の販売が増加
・産業機械業界向けの電機品及び電子部品の販売が減少

（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

海外現地法人売上高推移

（単位：百万円）



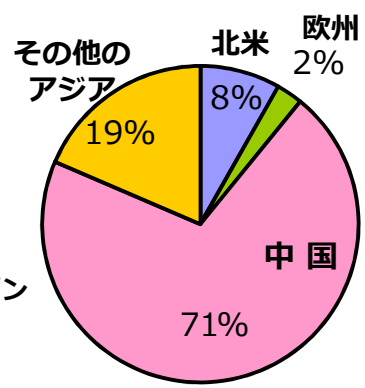
- ベトナム
- フィリピン
- インドネシア
- メキシコ
- タイ
- マレーシア
- シンガポール
- 台湾
- 深圳
- 香港
- 上海
- ヨーロッパ
- アメリカ

		14/3月期	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期（予想）
（参考）主な通貨の為替レート	1米ドル	105.39円	120.55円	120.61円	116.49円	110.00円
	1ユーロ	145.05円	146.54円	131.77円	122.70円	118.00円
	1中国元	17.29円	19.70円	18.57円	16.79円	16.10円
海外事業の売上高比率		29.7 %	32.9 %	32.1 %	31.1 %	32 %

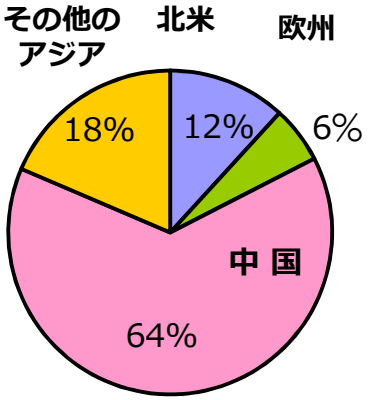
海外売上高構成

- 北米 ・・・アメリカ、メキシコ
- 欧州 ・・・ヨーロッパ
- 中国 ・・・上海、香港、深圳
- その他のアジア ・・・シンガポール、台湾、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム

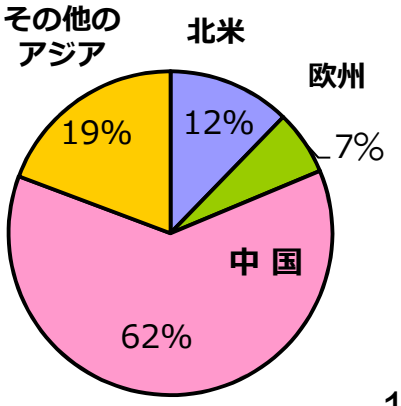
2016年3月期



2017年3月期



2018年3月期（予想）



受注高・受注残高の推移（連結）

（単位：百万円）

	前期	当期	増減額	対前期増減率
受注高	104,678	120,863	16,185	15.5%
受注残高	16,587	20,839	4,252	25.6%

過去最高の受注高、受注残高

■受注高

■受注残高

2017 年3月期 （個別）業界別売上高・主要仕入先

得意先（業界）	対前年同期増減（矢印） 及び シェア（%）					
	2015/3		2016/3		2017/3	
ＦＡ・産業機器	↗	27.6%	↗	29.7%	↗	27.3%
半導体・液晶	↗	9.7%	↘	8.3%	↗	10.8%
自動車	↗	3.4%	↗	8.2%	↗	10.7%
情報・通信	↗	4.6%	↘	3.5%	↗	3.4%
アミューズメント	↗	8.7%	↘	6.6%	↘	3.2%
ロボット・マウンター	↗	2.6%	↘	2.3%	↗	2.5%
社会インフラ	↘	2.4%	↗	2.8%	→	2.5%
工作機械	↗	2.0%	↗	2.2%	→	2.0%
環境・エネルギー	↘	3.7%	↘	2.6%	↘	1.7%
医療機器	↘	1.4%	↗	1.8%	↘	1.4%
食品	↘	0.1%	↗	0.2%	↗	0.3%
セキュリティ	↗	0.2%	↘	0.2%	↗	0.2%

仕入先
㈱安川電機
リコーインダストリアルソリューションズ㈱
オムロン㈱
ミネベアミツミ㈱
TDKラムダ㈱
フエニックス・コンタクト㈱
ケル㈱
JABIL CIRCUIT LTD.
㈱デンソー
スタンレー電気㈱
その他の仕入先で約60%（約1,900社）

連結キャッシュ・フロー

・現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比べ400百万円増加し、
当連結会計年度末は6,275百万円となりました。

（単位：百万円）

	当期	主な要因
営業ＣＦ	1,679	増加要因：税金等調整前当期純利益 仕入債務の増加 減少要因：売上債権の増加 たな卸資産の増加
投資ＣＦ	△235	減少要因：有形固定資産の取得
財務ＣＦ	△818	減少要因：自己株式の取得による支出 配当金の支払
現金及び現金同等物 期末残高	6,275	―――

（連結）貸借対照表比較表

（単位：百万円）

	前期	当期	増減額	主な要因
資産合計	55,439	64,816	9,376	受取手形及び売掛金の増加 電子記録債権の増加 投資有価証券の増加
負債合計	33,176	41,178	8,002	電子記録債務の増加
純資産合計	22,263	23,637	1,374	親会社株主に帰属する当期純利益による利益剰余金の増加

配当金の推移

期	中間	期末	年間	配当性向 連結
14/3月期	１０円	１２円	２２円	13.5%
15/3月期	１２円	１４円	２６円	15.1%
16/3月期	１４円	１４円	２８円	23.8%
17/3月期	１４円	１４円	２８円	24.6%
18/3月期	１４円 (予想)	１４円 (予想)	２８円 (予想)	18.0%

※当社は、株主の皆様に対して安定した配当を継続するとともに、業績の進展状況により増配や株式分割などを実施して行くことを基本方針としています。

- 2018年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

2018年3月期　業績予想について（連結）

（単位：百万円）

	2017年3月期 実績	2018年3月期　業績予想			対前期(通期) 増減率
		上期	下期	通期	
売　上　高	116,611	**61,500**	64,500	**126,000**	**8.1%**
営業利益	3,014	**1,550**	1,650	**3,200**	**6.2%**
経常利益	3,215	**1,700**	1,750	**3,450**	**7.3%**
当期純利益（※）	1,584	**1,050**	1,100	**2,150**	**35.7%**

（業績予想の前提となる為替レート　１米ドル＝110円　１ユーロ＝118円　1中国元＝16.1円）

【2018年3月期の見通し】

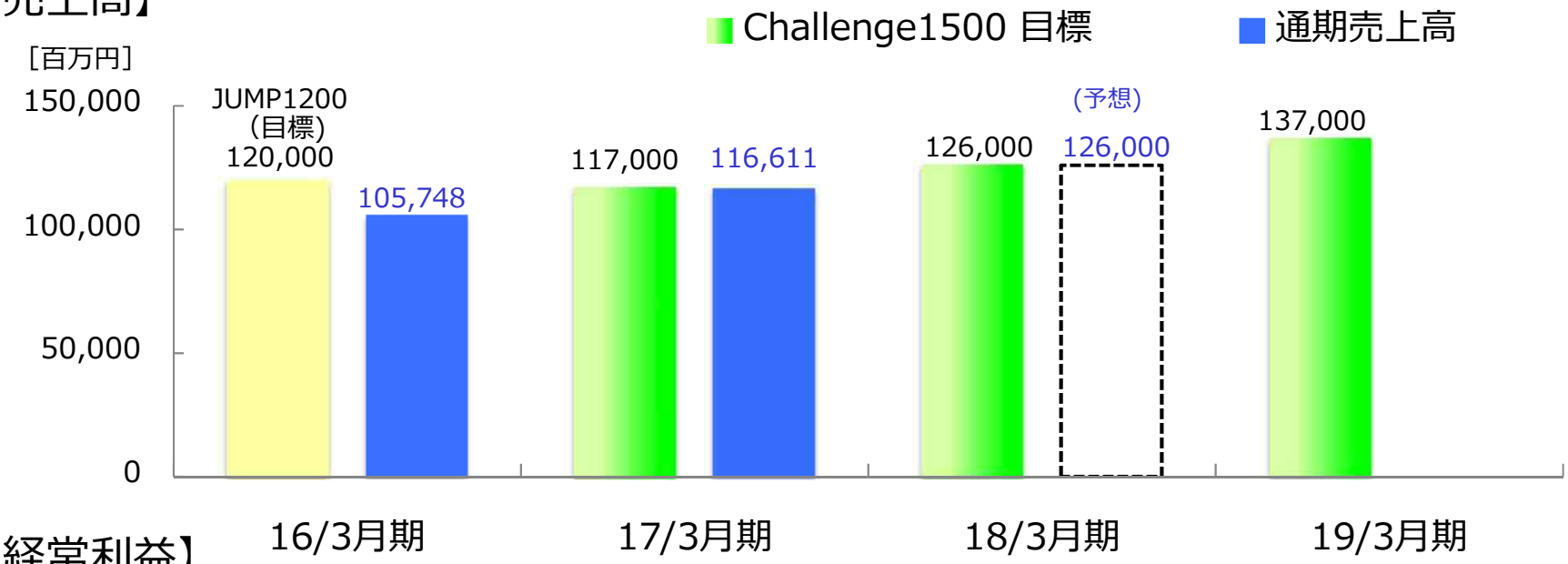
新興国における経済停滞の長期化や、米国及び欧州の政策の不確実性への懸念が高まるなど先行きは不透明な状況が続くと見込まれますが、経済政策による内需の下支えや企業収益改善に伴う設備投資の増加等によって景気は回復基調で推移するものと思われます。当社の主力客先であるＦＡ・産業機器業界向けの売上高は増加する見通しであり、増収増益の業績予想となっております。

（※）親会社株主に帰属する当期純利益

- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

売上高及び経常利益推移（連結）

【売上高】



【経常利益】

エンジニアリング事業

自動化システム、省エネ製品を提案しお客様のものづくりを支援します

- ＩＣＴ技術を活用した「未来のものづくり」を目指す
- ロボットを活用した 自動化システムの提案
- 省エネや省電力を目指したシステム提案

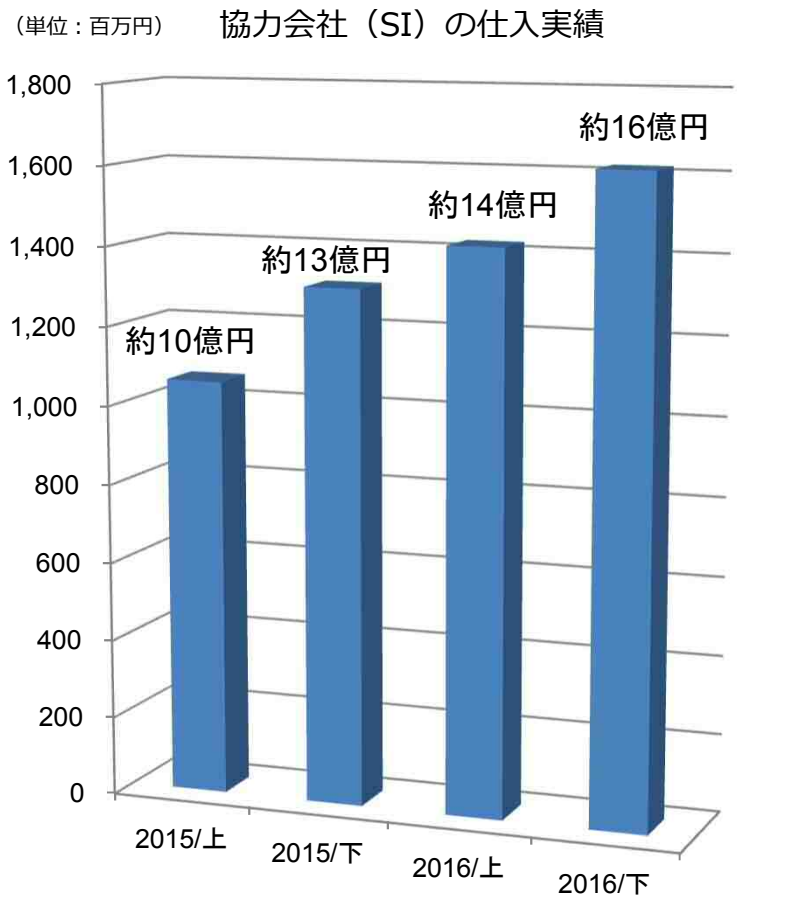
（トピックス）

2016年10月
エンジニアリング部を本社に統合

（目的）
2016年1月に本社に電機・電子・機械部門を統合し、更に10月にエンジニアリング部も本社に統合したことにより、電機・電子・機械の総合力の発揮および当社独自の「エンジニアリング事業」を積極的に提案できる体制が整う

2017年4月
メカトロニクス営業部・機械システム営業部をFAシステム営業部へ統合

（目的）
電機・機械を統合することで総合力を高め、エンジニアリング事業のさらなる強化を図る



グローバルＳＣＭソリューション事業

お客様の物流業務を包括的に受託し、最適ソリューションで資材調達から
生産、販売、リサイクルに至る一連の企業活動における物流合理化による
お客様のコア事業の拡大支援を実現します

- 生産移管などお客様のものづくりの支援（移管作業の効率運用）
- グローバルネットワークを駆使し、最適商流・調達を提案
- 現地調達の支援（現地メーカーの紹介と工場監査の支援）

【商談事例】

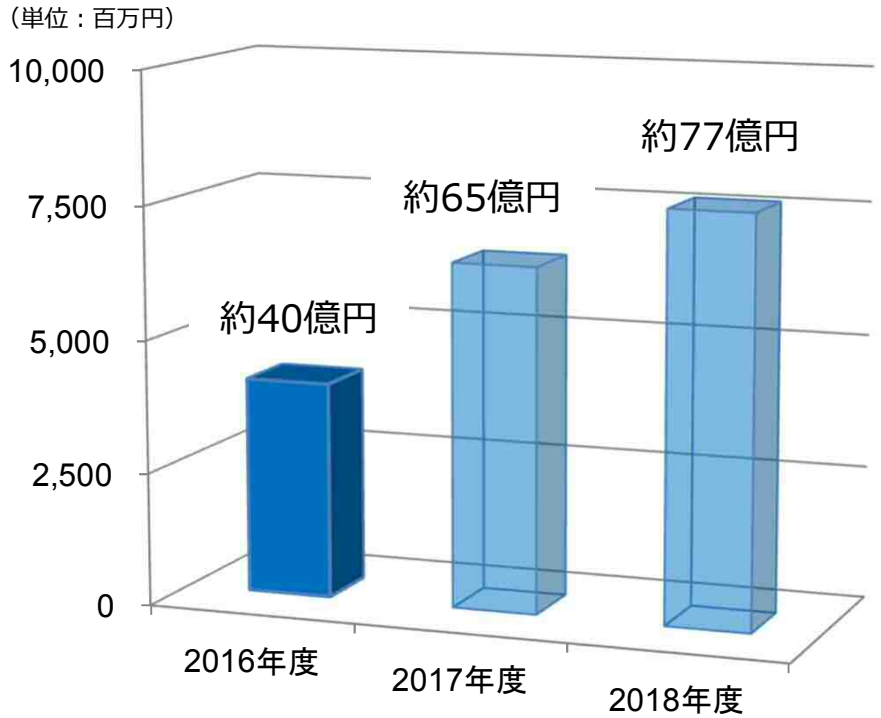
➢VMI対応（OUT-IN）
中国メーカー品を日本への出荷時に検査対応
日本の客先工場内で自社倉庫運用

➢自動ドアセンサー向け基板実装案件
部材を日本からタイへ（IN-OUT）
タイで生産した実装品を日本へ（OUT-IN）

➢鉄道車両用部品案件
EUメーカーから調達（OUT-IN）

➢海外半導体装置メーカーへの部材供給
日本メーカー品を香港へ（IN-OUT）
欧米メーカー品、中国生産品を香港へ
(OUT-OUT)

グローバルＳＣＭソリューション 売上高予測



（TOPICS）

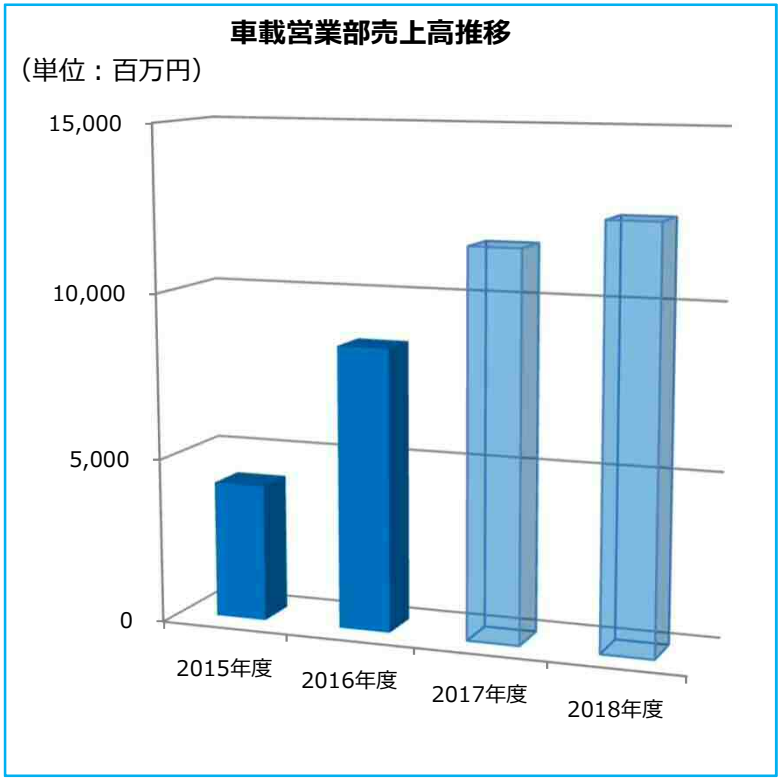
◆組織変更について

（2017年4月1日）
○名古屋支社開設
（目的）中部地区の業容拡大に対応した組織の変更。責任を明確化し、意思決定を早める。

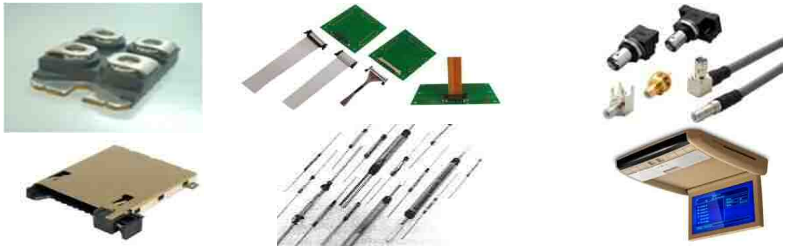
○横浜支店開設
（目的）電子営業部管轄の営業所から電機・電子・機械の３部門のコア事業を取り扱う支店に昇格し、
より地域に密着した展開を目指す。

◆車載営業部について

成長が見込める自動車関連ビジネスの拡大を目指す為に、特化型の組織として2015年4月に新設

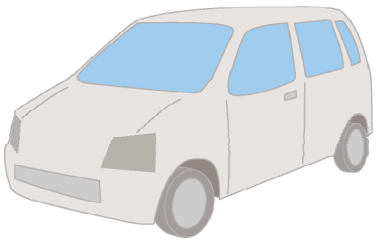


【主な納入品】
ダイオード　レンズ　カメラ　コネクタ　センサ　等
各種電子部品・機器



環境・安心・安全

【主な用途】
・先進運転支援システム
・ハイブリッドシステム
・コネクテッドカー
・アラウンドビュー
・ナビ・オーディオ
・ETC車載器　等



以上のように、高い成長性・収益性・安定性を求めて、経営に努力してまいりますので、今後も一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。